

Title	昭和四年三田史學研究會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.4 (1929. 12) ,p.160(668)- 161(669)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291200-0160">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291200-0160</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

昭和四年三田史學研究會例會報告

昭和四年三田史學研究會例會に於ける講演者及びその演題を列  
舉せば左の如し。

一月廿四日(木)午後一時半、於萬來會洋間、第百八十二回例會

異族結婚に就いて——川野正雄君

平安朝初期に於ける舊貴族の政權回復運動について——今宮

新氏

かしはて考——橋本増吉氏

二月七日(木)午後一時半、於萬來會洋間、第百八十三回例會

支那古代思想について——中野準一君

オシリス神話について——恒松安夫氏

狩衣の起源と其種別——高橋健自氏

二月十四日(木)午後二時、於萬來會洋間、第百八十四回例會並び

に卒業生送別會。

慶長十四年以後の薩琉關係——宇宿捷君

フランス革命に於ける政教の分立——大橋薫君

平安朝を中心とせる神佛習合の問題——淺子勝二郎君

僧形の非農民試考——櫻田勝君

十字軍に就いて——市川誠一君

秦の祖先に關する傳説に就いて——加藤繁氏

五月二日(午)午後二時、萬來會洋間、第百八十五回例會並びに新入

生歡迎會

思潮の流から見た文藝復興期——藤本善夫君

Teo Pagan が切支丹史の一節——吉田小五郎氏

東北地方發掘旅行談——大山柏氏

五月十七日(金)午後一時半、萬來會洋間、第百八十六回例會

ヤソ會士日本通信——河合操六君

四條金吾頼基之領邑について——有賀春雄氏

毛利文書について——川上多助氏

六月十四日(金)午後二時、萬來會洋間、第百八十七回例會

流罪地としての土佐國——北村勉君

ルイ十四世當時の君主專制思想に就いて——長田篤人君

傳説と史實と——淺子勝二郎氏

モンロー主義について——齋藤清太郎氏

九月廿八日(土)午後一時半、萬來會洋間、第百八十八回例會

穢多の名稱について——保原儀三郎君

樂浪出土の一点法器具について——原田淑人氏

十月廿四日(木)午後一時半、萬來會洋間、第百八十九回例會

ダンテ雜考——近山金次君

L. P. Jacqz の進歩の法則評論——山本光郎氏

南海語とアメリカ大陸語との交渉——松本信廣氏

十一月十四日(木)午後二時、萬來會洋間、第百九十回例會

西洋音樂史研究——富小路文光君

湘軍について——宮島貞亮氏

ドアカネスより——内藤智秀氏

十一月廿五日(月)午後二時半、萬來會洋間 第百九十一回例會並

びに恒松安夫氏送別會及び柴田常惠氏占部百太郎氏歡迎會

中世に於ける神道と政治上の關係——鈴木四郎君

日本古代の文化に就いて——柴田常惠氏

——以上——

### 寄贈交換圖書雜誌目錄

伊那の中路

我ころ

光明藏、安岡正篤著

箕山勝遊詩文集

日英交通史概観

多田院雜考、吉井太郎著

史學會々員名簿

栃木縣地理、田代善吉著

備後史談、五の一二。六の一

朝鮮佛教、六七。六八

朝鮮支那文化の研究

江戸文學研究、二の一

風俗研究、一一五。一一六

現代佛教、六八。六九

藝文、二〇の一二。二二の一

言語と文學

法律時報一の二。二の二、二

伊豫史談、六〇

神社協會雜誌、二八の一二。二九の一

上毛及上毛人、一五二、一五三

人類學雜誌、四四の一二。附録三、四。四五の一

字紙箋、一の一

國學院雜誌、三五の一二。三六の一、二

國史學、一

國體科學、四七、四八

國語國文の研究、四〇

國民經濟雜誌、四七の六。四八の一

かたな、三四三、三四四

考古學雜誌、一九の一二。二〇の一

民俗學、一の六。二の一

密教研究、三五

名古屋温故會報告、一三

歴史地理、五四の六。五五の一

歴史と地理、二四の六。二五の一

歴史教育、四の一〇

龍谷大學論叢、二八八

大 雄 閣

京都文學會

臺北國語國文學會

日本評論社

伊豫史談會

神社協會

上毛郷土史研究會

東京人類學會

字紙箋社

國學院大學

國史學會

國體科學聯盟本部

文獻書院

神戶商業大學

商業研究所

中央刀劍會

考古學會

民俗學會

高野山大學

密教研究會

名古屋温故會

日本歴史地理學會

史學地理學同政會

歴史教育研究會

龍谷大學論叢社